

ご意見シートでいただいたご意見・ご感想の要旨および区の考え

再開発事業について	ご意見シート	風が強くなるような再開発ビルが、駅の南側にも出来るのは不安。
		再開発事業を早期に完成させて、地元の人を呼び込むようにしてほしい。
		ユニバーサルデザインに配慮され、誰もが利用しやすい建物、広場、道路を再開発事業によって、実現してもらいたい。
		街の防災性を向上させることができる再開発で良い街をつかってほしい。
		人口が集まれば、確実に自転車が增える。自転車置き場を是非増やしてほしい。
		道路は欲しいが高層ビルは不要。
		商業施設の中に大手のチェーン店は入るのか。又は現在ある商店も入るのか。
		このままでは、他の街から遅れてしまう。早く再開発を完成させて街に若い世代、子供の声のにぎやかに聞こえる街を作してほしい。
		大変意義のある再開発であると感じた。石神井公園へのゲート性を持たせた施設としてほしい。
		高齢者や身障者にとって強い風は大敵である。ビル風対策は、ビルの高さを抑えるのが一番。
		「昨年の報告会などでの意見を踏まえて改めて計画内容を説明する」と言っていたが、地域のどのような意見をどう反映したのか。
		ビル風の具体的な対策を示していない。
		再開発事業でテナント料が高騰し、地元業者の締め出しにつながる。
		再開発ビルの中に役所の窓口が移転すると不便になる利用者の方が多くなるのではないか。
		補助232号線を通すためなら、街路事業で問題ないはず。「街路事業+区画整理+建物補助」のような案は考えられないか。
		地球温暖化を加速させる超高層ビルは不要である。
		石神井公園駅周辺に来やすい様に再開発地域に無料の自転車一時預かり所を設置してほしい。
		超高層マンション計画に関しては、人が激減する中でどのような対応・対策・対処・工夫がとれるのかを考えることが肝要である。
		現状でも光和小は飽和状態であり、校庭をこれ以上広げる余地はない。再開発ビル建設後に対応できるのか。
		計画道路で道幅が広くなり、公共施設が駅前にできれば、石神井公園駅を利用する近隣の区民にとっては、大変ありがたい。
		道路に土地を取られてしまう方がいるのであれば、再開発も同時に進めるべき。
		道路区域内の地権者さんが他へ転出することなく、生活再建できる計画は、大変意義のあること。
		再開発ビルを建てれば、周辺の気流・日照等に大きな影響を与え、ビル風等の弊害が強まる。
		高層ビルは、災害時に高層階の住居の方々の往来が極めて困難になる。メリットばかりを強調するのはいかがかと思う。
高さ制限を撤廃しなければ本計画は成り立たないのか。		
「補助232号を建設するために、石神井公園駅前南の再開発が必要だ」というように聞こえた。このような考え方は、やめてもらいたい。		
今まで以上に強烈なビル風が吹き荒れることが容易に想像できる超高層ビルは、石神井のまちにふさわしくない。		
区 の 考 え	本地区における市街地再開発事業は、以下のような効果が期待できます。区は事業の実施に向けて今後も取り組みます。	
	○個々の建築物を共同化することにより、オープンスペースを創出し、その空間に植栽を整備することにより、みどり豊かな街並みが実現できます。	
	○補助232号線の整備による歩車分離により、安全な歩行環境が実現し、建築敷地のオープンスペースと併せて、区民の誰もが使いやすく、安全性と潤いのある空間が実現します。	
○生活に密着した行政サービス機能を駅前に整備することで、様々な交通手段により、快適にアクセスでき、区民の方々の利便性を向上させることができます。		
○建築物の共同化で建築物を新耐震基準で設計し、不燃建築物となることで、防災性を向上させることができます。		
○商業、業務施設や住宅の集積により、買い物客だけでなく働く方々や住人も増え、地域の商店街や、石神井公園へ足を延ばすなどの相乗効果が生まれ、まち全体の活性化に寄与すると考えます。		
区は、駅西口という新たな玄関口を活かしたまちづくりを検討する場合、現在検討している区域で再開発事業を実施することが、より望ましいと考えています。再開発事業は、道路整備や建物の共同化・不燃化等を一体的に行い、防災性を高めると共に、みどり溢れるオープンスペースの整備など、潤いのある駅前空間とすることで、まちの魅力を高め、まちの発展に資する事業です。事業実施の際は、風環境にも配慮しながら取り組んでいきます。		
今回の報告会では、今まで頂いたご意見を踏まえ、建物高さや形状を見直すとともに、風環境の検証や、整備イメージなどをご提示し、ご意見を伺いました。再開発ビルに入る具体的な店舗や駐輪場の台数などは、現段階では決まっていません。今後、皆様のご意見を踏まえて検討するよう準備組合を指導します。		

補助 232 号線 について	「意見シート	バス通りは、狭く、歩道がない為あぶない。232号線により、早く安心して人が歩ける歩道付きの道路を整備して欲しい。
		防災、歩道の確保、街の発展を考えると是非進めてもらいたい。
		石神井公園駅南口の交通状況を改善するためにも補助232号線の整備は不可欠である。
		これからの若い世代の人たちの事を考え、子育てし易い環境と障害者が移動しやすい道路の整備を希望する。
		都市計画道路区域内の方は土地利用の制限をずっと受けている。道路整備の推進の責をおうのは行政と思っている。早期に実現すべき。
		補助232号線は都市計画決定から何年経過していると思われるか。肅々と計画を進める様、切に願う。
		商店街が分断されてしまう。「まちの回遊性が高まる」「安全安心」と全く逆ではないか。
		車両通過道路から発生する騒音、排気ガスに伴う空気汚染対策は何も提示されておらず、到底納得は出来ない。
		都市計画道路232号線計画区間(庁舎～駅南口)でこの道路を南北に横断できる箇所をどのように計画しているのか公表してほしい。
		バスルートはどの様になるのか。
		新路線の必要性を客観的なデータで示してほしい。
		232号線の通行は、ほとんどが通過交通である。南北の歩行者動線を分断し、騒音・振動・排ガス等をまき散らす公害の源である。
		人口が減り、車の数もへることが確実なこの国で、新しい大型道路は不要。人口減少した社会では維持費も少なくなる。新路線を整備するより富士街道の整備等の方が快適な交通環境になる。
		以下の3点から新たに道路を造る必然性はない。寧ろ今後の高齢化社会に備え現状の改良・改修に注力するのが社会要求に合致する。 ・人口が増加する見込みはない。 ・免許者数を見ると70歳未満～40歳以上に比べ、40歳未満の保有者数は少ない。 ・これからの超高齢化社会に向け、道路では歩く人への対策を先ず考えねばならない。
		16mの道路が出来ると聞き心配したが、歩道が3m、再開発建物側に約4mの空間ができることで安心した。大きな歩道ができること、緑を植えること、信号の設置を検討していることなどをアピールしてもらいたい。
		準備組合が出したスライドのイメージ画(図)は現実離れで、道路の車の往来、騒音、排気ガス等、何も見えてこない。232号線は、石神井の町を南北に分断する道路だと思ふ。
		現在の道路は危険、歩道が整備された方が安全で車いすも通りやすい。駅前は当然、道路整備すべきである。
		新しい232号線を早く作ってほしい。街が一変するのを楽しみにしている。
		駅正面から斜めに商店街に入るための歩道はなく、この動線は架空のものではないかと疑問を持った。
道路整備により、緊急車両の通行や、広い歩道の整備などと、メリットが多くあることにビックリした。防災性が高い安全なまちづくりを願う。		
南街区ビルと北街区ビルとに渡り廊下をつくり、更に石神井公園駅までの渡り廊下をつかって、16m道路の信号待ちをせずに駅へ行けるように出来ないか。		
区 の 考 え	平成15年に策定された「石神井公園駅周辺地区 まちづくり全体構想」に基づいて、富士街道、補助132・232号線の道路ネットワークを整備することで、交通結節点である石神井公園へ多方面からアクセスできるようになります。また、南口商店街において買い物客が安心して買い物ができたり、障害者や高齢者などの交通弱者が安心して通行できるよう、整備を進めていきます。	
	まち全体の回遊性を確保するため、適切な位置に横断歩道・信号機を設置するよう、事業の進捗に合わせて警察と協議をしていきます。	
	補助232号線は、第四次事業化計画の「将来都市計画道路ネットワークの検証」において、「交通処理機能の確保」に資する路線として必要性を確認しています。他にも、「交通結節点へのアクセス向上」「地域のまちづくりとの協働」に資する路線としても必要性を確認しています。	
	法令等の対象となっていない環境影響評価を行う考えはありません。再開発ビルの壁面後退部分と合わせて歩行者空間を緑化することにより、都市生活を支える良質な空間を創出するよう努めていきます。	
現在、バスルートについての具体的な協議は行っておりませんが、補助232号線が整備されれば、バスの安全な運行が可能になります。		
「意見シート	石神井公園駅周辺にこれ以上高層ビルを作らないでほしい。景観を壊す。地区計画を無視して新たな都市計画とはとんでもない暴挙だ。	
	たった6年前に決めただけの「地区計画」を強権的に強引に押しつづすやり口は、住民のためとは言えず、とても民主国家とは言えない。	
	今回、再び提示されたプランは、明らかに条例に反しており、激しい憤りを感じている。	
	地区計画の柱である高さ制限を無視することは、地区計画を骨抜きにすること。この地区の街並み誘導型地区計画を取りやめるのか。	
	区が考える「地区計画と全く違った都市計画」とはどのような都市計画か。	
	景観計画は無視するのか、あるいは「景観計画も変更しよう」と考えているのか。	
	都市計画の変更はその背景となる社会環境の大きな変化により、ルールが実情に合わなくなったときに行うものであるが、石神井の環境は特に変わっていない。	
	今回の報告の中で地区計画についてふれてないのはおかしい。	
	「都のホームページ」等にあるとおり地区計画の決定に当たっては、丁寧な住民合意を図るべきである。	
どのような街の将来像を区は考えているか。		
区 の 考 え	35メートルの高さ制限を含む地区計画は、石神井公園にとって、これ以上の高層建築は景観等の問題があって、なじまないとの認識の下に策定されたものと理解しており、このような合理性を持った地区計画を変更すればいいというような考え方はあまりに安易である。	
	石神井公園駅南地区地区計画は『街並み誘導型』というもので、「土地の合理的かつ健全な有効利用の促進および良好な環境の形成を図ること」を目的として創設されたものです。その目的を達成するため、基盤整備が必ずしも十分でない既存市街地において、地区の特性に応じた建築物の高さ、配列および形態を地区計画として一体的に定め、工作物の設置の制限等必要な規制および建築物の形態に関する制限の緩和を行うものです。 市街地再開発事業の目的も、都市計画道路の整備や、地区計画で定めた制限以上に建築物の壁面を後退させることで、基盤整備の水準を向上させ、良好な環境の形成を図ると同時に、駅前というポテンシャルの高い地域の合理的かつ有効な土地利用を促進するものです。従いまして、土地の合理的利用を促進するという趣旨においては、再開発事業と街並み誘導型地区計画制度は同様です。 しかし、市街地再開発事業は、事業期間内に、敷地や建物の共同化を図り、併せて、都市計画道路を整備するという点では、地区計画とは異なる都市計画です。本再開発事業は、道路整備や建物の共同化・不燃化等を一体的に行い、防災性を高めると共に、みどり溢れるオープンスペースの整備など、潤いのある駅前空間とすることで、まちの魅力を高め、まちの発展に資する事業です。事業に対する機運の高まりや、地域のご意見を踏まえ、今後も事業化に向けて取り組みます。 再開発事業の都市計画決定に当たっては、関係する諸計画に適合することを確認し、高度利用地区や既存の地区計画の変更など、関連する都市計画も同時に決定・変更していきます。	

まちづくりについて	ご意見シート	是非、防災性の高い安全なまちづくりをお願いしたい。 石神井公園があるのに、駅前があの状況ではもったいない。 箱物は、その時に雇用を生むだけで、後には通過交通点としての石神井公園が残るだけ。子、孫の時代に何も残らない。我々の目指すべきは、文化の香るアットホームな石神井公園、世界に誇れる街である。 子供と母親に親切的な街を目指してほしい。 早期に再開発と道路の整備を実現して豊かで美しい生活空間を構築してほしい。
	区の考え	石神井公園駅周辺では、駅・商店街・石神井公園が連続した魅力あふれるまちづくりを目指し、市街地再開発事業の実施、補助132号線や補助232号線の整備、商店街通りの街並み整備などに取り組み、まち全体の回遊性を高め、安全、安心で賑わいのある快適なまちづくりを実現します。
会の運営、今後の進め方等について	ご意見シート	たとえ閉会の時間になっても、挙手している人が残りわずかであれば、時間延長などして対応してほしい。 まともな返答が得られなかった。 全体的にわかりやすい説明、答弁だった。 メリットしか言わないのは問題。デメリット(課題)と解決策に時間をさくべき。 分かりやすい報告会であった。 賛成側の意見と反対側の意見を同数交互に当てたら、かたよらなくて公平になると思う。 報告会は232と再開発について、プラス面のみ強調し、マイナス面の説明がない。 議事進行にみられた準備組合との一体感は不可思議であり違和感を覚えるものであった。 報告会の周知範囲・周知期間が狭く、短期間である。 昨年2回の報告会はちゃんとした話し合いが出来なかったが、今回は2日とも整然とした場となり、区の説明も明確で、話し合いも尽くされたと思う。 昨年7月発行の「開催結果のお知らせ」の質疑応答の要旨で書かれている、地域住民が当初より知りたい具体的説明が今回もなされていない。 ビル風に関する説明資料は配布が必要。一般の人はあの説明では解らない。 再開発事業についての説明が大半をしめていて、本来の232号線についての報告が殆んどなかったのに等しい。 232号線を通るはずの「車」が殆んど描かれていない。232を通る車の台数規定について質問したが返答はあいまいだった。 時間をかけて話し合う場を設けるべき。 前回の報告会は、野次で雰囲気が悪くわかったが、今回は本当にまちの将来について、意見される方が多く、良い会であった。 反対の方の声が多く届くかもしれないが、賛成の人で、声をあげてない人も多くいるかと思う。 より公平に発言機会が与えられるよう、今後の運営改善が図られることを希望する。 推進派の意見に大きな拍手を送るという光景に大きな違和感を覚えた。 少数の声の大きい反対派のためにまちづくりが滞ってはいけぬ。行政は“公共の福祉”を第一に考えるべき。 とにかく早い計画の実現を区には進めてもらいたい。 早急な実現に向けて全力を傾けてほしいと願っている。 地域住民との合意形成をはかり、しっかりしていねいに、再開発、道路事業を見直していただきたい。 今後は、時を急ぐことなく多くの意見をつのり、民意の醸成を前提とした進め方を原点とした行政を切望する。 石神井公園駅周辺が、一日も早く整備され、快適で安全、安心な拠点となる様、切実に希望する。 今後も丁寧な説明会等の実施をお願いする。 再開発計画を強行しようとするのでは、周辺住民を含む広域な区民・都民の理解は得られない。再開発の対象とする地域を拡大する等して、現行の地区計画に沿った再開発計画を練りなおすべきだ。住民投票・住民アンケートをきちんと実施して、周辺の住民の再開発計画に対する賛否・提案をきちんと聞く手続きを取るべきだ。 都合の良いデータのみ提示するのは民主主義の基本に反する。
	区の考え	一昨年の報告会では、質問者以外の方の発言が多く、会の進行に支障をきたしたため、今回は、会の進行に関して、会場内に掲示し、司会者からも「質問者以外の発言はお控えください」とのお願いをしました。質疑応答の際には、皆様にそのルールを守って頂き、滞りなく会を運営できたと考えています。今後もより良い会の運営を目指していきます。 今回の再開発ビルの説明では、前回心配の声が多かった風環境の検証結果をお示ししました。また、質疑応答では、区が考える再開発事業の効果の具体例についても説明しました。前回までのご意見と、今回の質疑について一定程度ご説明することができたと考えています。 一昨年の報告会以降、町会・商店会などの地域の方々や、再開発事業に懸念を抱いている権利者の方々から、様々な機会を通じてご意見を伺ってきました。今後も引き続き、皆様方のご意見を伺いながら、事業の実施に向け取り組んでいきます。

※ 特定の個人に対する内容、事実と異なる内容、および再開発事業以外の内容を含むご意見については、非掲載・無回答としています。